

平成30年7月24日

関係各位

熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学
教授 片淵秀隆

拝啓

平成30年3月に発刊しました教室の同窓会報第67号の巻頭に、「0.27%の確率」というタイトルで拙文を掲載して頂きました。この数字は同じ誕生日である確率で、婦人科病理学の泰斗である米国Maryland大学のSteven G. Silverberg名誉教授と私が同じ誕生日であることを知るに至った顛末を紹介しました。Silverberg教授ご夫妻は、ここ10年、毎年春から秋を過ごされていた五所川原に永住されることを今年決意され、7月の上旬に八甲田で催されたご夫妻の金婚式を祝したパーティーに出席させて頂きました。例年より早く梅雨が明け、既に酷暑と報道されている最中、暖房をつけて就寝するほど夜間は冷え込みました。日本は広いと改めて実感していたところ、先週末に医局旅行で楽しく過ごした産山村のヒゴタイ公園キャンプ村の夜も、厚い掛け布団なしでは寒いくらいで、灼熱・多湿の熊本市から1時間余りのところに素晴らしい避暑地がありました。

7月7日の朝刊の全紙が、その殆どの頁をオウム真理教事件の主犯への刑執行の話題で埋め尽くしていました。その片隅に、日本が誇る免疫学者である石坂公成（きみしげ）博士（92歳）の逝去が小さく報じられていました。本当であれば、このことこそ、全紙が大きく報道すべきことで、テレビのニュースでも殆ど触れることはありませんでした。今でこそ花粉症や食物アレルギーの治療薬が開発され広く普及するようになりましたが、これは1966年に石坂教授が照子夫人と共に発見した新しいIgEによる免疫の過剰反応がアレルギーの本質であることを証明したことに始まります。私が医学生の時、第1病理学の林秀男教授の講義の中で、石坂教授のこの偉大な業績を熱く語られていたことが懐かしく思い出され、また免疫病理学の吉永秀教授の試験問題は「IgEについて述べよ」の唯一の問題でした。石坂教授が長く研究に従事されたJohns Hopkins大学に私自身が25年前に留学することになった時、日本人研究者の大きな足跡の残る大学で学ぶことができることを誇りに思いながら海を渡りました。心より哀悼の意を表します。

8月と9月の予定表を同封致しました。9月23日（日）の教室の恒例の同窓会には、大西一史市長にお越し頂き、ご講演を賜ります。皆様のご参加をお待ちしております。

敬具